

# 初恋を思うべし

南都明日香ふれあいセンター 犬養万葉記念館

NO. 15 (2023年4月号)

昨年、平城京で開催された「万葉植物画展～アートと万葉歌の出会い～」の展覧会が各地で巡回展示されました。『万葉集』に詠まれた植物をボタニカルアートという技法で描く新たな企画と作品展示に記念館も協力させて頂いたので、3月より4月9日まで犬養万葉記念館とキトラ古墳の四神の館の2か所が同時開催の最終会場となりました。記念館のホールも春の季節にふさわしく華やかで明るい雰囲気になりました。記念館で販売しているオリジナル万葉植物カレンダーの今年の表紙には小西美恵子先生の作品を提供して頂きました。ボタニカルアート



によって『万葉集』の多彩な魅力がまた新たに引き出されたことに、驚きと喜びがひとしおでした。

## 犬養先生の碑



佐保川付近を散策していた大伴坂上郎女。「流れをさかのぼって見る川原の柳が芽吹いて、もうすっかり春の風情になったことだ」と春を実感した歌でしょうか。現在は桜の名所として春を楽しむことができるスポットです。歌碑は佐保川沿いの緑地公園に建っています。

⑤うちのぼる 佐保の川原の 青柳は  
今は春へと なりにけるかも  
大伴坂上郎女 (巻8-1433)

## 記念館歳時記



### 山口千代子古代衣装展を開催しました

古代衣装の復元、制作の第一人者、山口千代子さんの衣装展を開催。高松塚古墳壁画の女人像や天武天皇、持統天皇など、「飛鳥・藤原京」の人々の華やかな衣装がホールに所狭しと並びました。展覧会終了後も藤原鎌足と安見児の衣装は引き続き館内で展示しています。



### 万葉植物野外講座

すぐに定員が満員となる大人気の植物講座。梅の花が咲きほころぶ3月5日には、桜井市出雲地区周辺を歩きました。『万葉集』巻1の1の「こもよ みこもち…」の歌碑が建てられた公園は大和平野が一望できる絶好のビューポイントです。



### 手作り門松で迎春

薄緑色や紫色の葉ボタンにめでたい松と柳を挿し、赤い実のセンリョウを飾った岡本三千代特別館長の手作りの門松で新年を迎えました。



### 岡本三千代の万葉ゼミ

コロナ禍の状況も少し落ち着き、年初から会場が犬養万葉記念館に戻りました。犬養先生の映像や声も合わせて「犬養万葉」をお伝えすることがうれしいです。



### みんなで歌おう懐かしの歌

楽しく懐かしい童謡唱歌を歌うこの機会も徐々に定着し、2月には明日香村文化協会会長の境山正甫さんにゲストとして篠笛演奏のご参加もいただきました。

## 梅・桃・桜

3月5日の「早春の万葉植物野外講座」で訪れた、桜井市出雲では梅が満開でした。



2月11日には、帰省して、太宰府市の市民ホールで催された「梅花の宴」に参加しました。今年は太宰府市制施行40周年、大宰府万葉会設立25周年にあたり、盛大に行われました。私は、幼稚園児の舞の直後で緊張しましたが、万葉衣装を着て、少監（せうけん）土氏百村（としのももむら）の歌を朗唱しました。



梅の花 咲きたる園の 青柳(あをやぎ)を  
縵(かづら)にしつつ 遊び暮らさな

巻5-825

梅花の歌三十二首(巻5-815~846)は、天平二年正月十三日(太陽暦の2月8日)、大宰帥(ださいのそち)大伴旅人(たびと)宅で開かれた梅花の宴で詠まれたもので、その序から「元号令和」が名付けられました。会の前に参拝した太宰府天満宮では、菅原道真(すがはらのみちざね)ゆかりの飛梅(とびうめ)が開花し、芳香を放っていました。梅は中国原産で、この頃、渡来した珍しい花で、万葉集に多く詠まれた植物ですが、まだ庶民には縁遠かったようです。吉野ケ里遺跡の資料館で、出土した梅の種を見た記憶があるので、弥生時代から少しずつ渡来していたかもしれません。

同じ旅人の「松浦(まつら)川に遊ぶ序」では、「桃

の花を頬(つら)の上に発(ひら)く」女子等(をとめら)に出会い歌を交わしました。家を問われた女子は「巫峡(ふかふ)に伏して空しく煙霞(えんか)を望む」と答えました。この巫峡は長江中流にあり、25年前の春訪問しました。上海から湖北省宜昌へ飛行機で。ここから巫峡を経て四川省巫山までクルーズに出かけました。飛行機から見た流域の黄(ナノハナ)とピンク(桃)のモザイク模様的美しさや、巫峡兩岸の満開の桃や李(すもも)の花は今も忘れません。

1972年、有田市系我(いとが)町中番(なかばん)得生寺(とくしょうじ)に犬養孝先生揮毫の万葉歌碑が建立されました。

足代(あて)過ぎて 糸鹿(いとが)の山の  
桜花 散らずあならむ 還り来るまで

作者未詳 巻7-1212

紀の温湯(きのゆ)(白浜温泉)行幸に同行した役人の歌でしょう。「帰って来るまで、散らないで」と詠っています。この「糸鹿の山」は有田市と有田郡湯浅町、有田川町にまたがる雲雀(ひばり)山の古名です。万葉集に詠われた桜はヤマザクラであり、花より先に葉が出ます。雲雀山は、こんにちには密柑山となっていますが、稜線の雑木林にはヤマザクラが多く、ソメイヨシノの開花に先駆けて、3月末が見頃です。歌碑建立の翌年から、犬養先生は3月最後の日曜日、学生と訪れるのを恒例とされていました。私も大学院生のころ、毎年参加しました。JR紀伊宮原駅で下車、有田川を渡り、得生寺の歌碑前で万葉歌を皆で朗唱しました。そこから、雲雀山裾の熊野古道をヤマザクラを見ながら系我峠まで歩き、昼食。午後は、熊野古道と別れ西へ、鹿打坂(ししうちざか)、白上(しらかみ)山の明恵(みょうえ)上人遺跡、施無畏(せむい)寺を経て栖原(すはら)海岸まで楽しく歩きました。白上山から見下ろす湯浅湾の夕景は絶景でした。



「紀伊万葉かるた」の読み札の「糸我山」

### 編集後記

★犬養先生門下の富田敏子さんが、1月21日に逝去されました。犬養万葉記念館に協力する会の事務局長として、犬養万葉記念館の設立準備から、完成した後も記念館のために企画、展示、書物の制作など長年尽力されました。その足跡は四半世紀経た今も記念館で活用されています。戒名の中に読み込まれた「柳」は、佐保川の伴坂上郎女の歌から選ばれました。しなやかで、しかし折れることのない強さを持つ「柳」の様だった富田さん。大好きな佐保風や、明日香風に吹かれながら旅立っていられました。心よりご冥福をお祈りいたします。

うち上る 佐保の川原の青柳は  
今は春へとなりにけるかも

### 記念館イベントのご案内

- さわらび講演会(6月11日(日)13:00~) 飛鳥弘文氏(飛鳥坐神社)
- 岡本三千代の万葉ゼミ(毎月第3日曜)
- みんなで歌おう懐かしの歌(毎月第1木曜)
- 馬場吉久講師の万葉植物野外講座(次回は5月14日)

※詳細についてはホームページ、または記念館にお問い合わせください。



発行者：南都明日香ふれあいセンター 犬養万葉記念館  
〒634-0111 奈良県高市郡明日香村岡1150  
tel: 0744-54-9300 fax: 0744-54-4200  
Eメール: info@inukai.nara.jp  
ウェブサイト: http://inukai.nara.jp

発行責任者：奥山雅美